

「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

1. 授業の概要

本授業は、国語教育の問題点を踏まえながら授業を構成することができるようになるための基礎力を養成するところに特徴がある。目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① はじめに一授業のオリエンテーション
- ② 国語科教育の構造
一自分が受けている授業のメタ認知一
- ③国語科教育の現状(その1)
一新学習指導要領と旧との比較を通して一
- ④国語科教育の現状(その2)
一今日の新聞の報道をもとに一
- ⑤国語科教育の問題(その1)
一作文文集「潮」について一
- ⑥国語科教育の問題(その2)
一 PISA 型読解力について一
- ⑦国語科教育の問題(その3)
一カナダ・オンタリオ州におけるコミュニケーション教育のあり方一

⑧国語科教育の問題(その4)

一評価のあり方一

⑨国語科教育の問題(その5)

一文学の教材分析のあり方一

⑩国語科教育の問題(その6)

一ひとりひとりを生かす授業とは一

⑪国語科教育の問題(その7)

一国語学力論について一

⑫国語科教育の問題(その8)

一詩歌の教材分析のあり方一

⑬国語科教育の問題(その9)

一論説文の教材分析のあり方一

⑭国語科教育の課題

一国語科教師としての内省力一

⑮まとめ

受講生は14名である。なお、レポートの課題は次のことに関するものである。

○国語学力論に関する論文のまとめとそれに対する自分の考え

○論文を読む際に留意すること

○国語科教育についてさらに考えてみたいこと

3. 授業の工夫点と留意点

本授業は、基本的に学習者の問題意識に即して授業内容を決定していった。この点が本授業の最も大きな工夫点である。したがって、授業展開における内容は最初から計画していたものではなく、結果的に導き出されたものである。

授業にあたっては学習者の学習状況を把握しながら、次のことに留意した。

①批判的視点の形成

学習指導要領の解釈において、学習者は一般的に『学習指導要領解説』などに頼りがちである。それらに頼るのではなく、自分の目でどのような特徴があるのか捉えることができるよう、批判的視点の形成をねらった比較読みを導入した(「国語科教育の現状その1—新学習指導要領と旧との比較を通して—」)。

②国際的視野の形成

PISA 型読解力の話題を契機として、「カナダ

・オンタリオ州におけるコミュニケーション教育のあり方」を取り上げた。国際的視野から国語教育を考えていくことができるようにするためである。

③協議力の形成

学校現場では、授業の協議力が問われる。授業は基本的にディスカッション形式をとった。発言の受け方、質問の仕方等に関する具体的な支援を行うことによってその力の育成を図った。

4. 授業のアンケート結果とそのまとめ

授業後に授業方法に関するアンケートを行った。以下、そのアンケートの記述をいくつか挙げる。

- 学生の興味・関心に合わせて内容を作ってくださっていたので、ただ講義を受けるだけの授業よりも自分に引きつけて考えることができました。また、他の人と意見を交換することによってそれまでの自分にはなかった新たな知見を得ることができました。自分の疑問を拾っていただいて授業をしていただけたのはうれしかったのですが、本当に些細な疑問は少し言い出しづらい雰囲気があり解消しきれない部分がありました。
- 先生の学生の意見から広げていくという講義のやり方は実際に気になっていることについて考えることができたので良かったと思います。また、先生が問いに対する答えを言わず、学生に問いを投げかける形で終わることで、考え続けることができるし、それぞれ個人の考えを大事にすることができたと思いました。私は、他のみんながとても深く考えていたり、私が思いつかないような意見をたくさん持っているということに改めて気づかされたので、いつも同じ人の意見ではなく、いろんな学生の意見をもっとたくさん聞いていたらもっと良かったかなと思いました。
- 最初は疑問を出せと言われても思い付かなくて困ったけど、それは自分が本気で考えられていないということで、最後の方の授業では、もっと知りたい考えたい話したいという欲求が出てきて教育について少しは真剣に向き合えるようになったかなと思った。その点で授業を「その時の学生の疑問」に沿ってつくるということは、思考を直でリンクしていて良かったなと思う。
- この授業は、グループ討論というか、全員が

発表する機会が多くあり、他人の意見を聞いて、自分との解釈の違いや、新しい発想などを取り込められたと思う。「自分たちで課題を探す」というのが、自分たちの主体なんだなと真剣になれた。しかし、私は今ひとつ課題を見つけられなかったのが心残りだったのでもっと深く考える時間を授業外でとるべきだった。

- 私たちのつぶやき、疑問を拾って、授業にしてくれたのがとてもよかったです。自分の疑問を解消していく授業なので、どんどんモチベーションが高まっていきました。できることなら、今の状態のまま、もう一回最初から授業をやりなおしたいです。
 - 15回を振り返ると授業で述べられていた内容・授業づくりがそのままなされていて、授業で習った理論の実践を体験したのだとわかった。私たちの思いや疑問を大切に授業を進めてくださり、疑問の解決や新たな発見の糧となつてとてもおもしろい15回だった。この今の思いを持ったまま、もう一度はじめから受けた内容だった。
 - 他の人の疑問等を共有でき、一緒に考えたことで自分も疑問を持つことができました。自分1人では思いつかないような疑問もあり、よかったです。次から次へと視点が得られ、次から次へと疑問が生まれ、解決されていくという流れは思想的に自然にのることができました。
 - レポートをまわしたり、意見を言い合ったりして仲間のモチベーションに刺激されました。(中略)この授業は、10年後、20年後の教師生活を支えるものだと思います。悩み続けて、迷い続けて、時には「問い」をやめて余裕を持ちながら教師をしたいです。
- アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという授業展開に対する評価は高いといえよう。また、その内容からは、国語教育のあり方についての考究的態度が育成されている様子も伺える。授業の工夫の効果はあったように思われる。ただし、それはすべての学習者に見られたというわけでない。その要因のひとつに、学習者同士で議論をする時間を十分とることができなかつたということが考えられる。来年度も同様の展開で進めるのがよいと思われるが、その点の改善を図っていく必要があると考える。